



大腸癌化学療法における早期有害事象発現と肝臓容積に関する検討

2021年9月1日から2023年9月30日までに大腸癌のために化学療法を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「大腸癌化学療法における早期有害事象発現と肝臓容積に関する検討」という研究を倫理委員会の承認並びに施設長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2021年9月1日より2023年9月30日までに日本医科大学付属病院消化器外科にて、大腸癌のために化学療法を受けられた患者さんの副作用と治療前肝容積の関連を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただきず、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：大腸癌化学療法における早期有害事象発現と肝臓容積に関する検討

研究期間：研究実施許可日～2025年12月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器外科 助教・医員 岩井拓磨

(2) 研究の意義、目的について

消化器分野における抗癌剤の投与量は体表面積をもとに算出するものが多いですが同程度の体表面積で同じ投与量の抗癌剤が投与されても副作用の発現には大きな個人差があります。抗癌剤をはじめとする薬剤の主な代謝臓器である肝臓のサイズを個別に評価することで副作用の予測に有用である可能性があります。本研究は体表面積に対する肝容積比率を測定し、早期副作用発現の頻度と関連を認めるかを明らかにすることを目的とします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2021年9月1日～2023年9月30日までに日本医科大学付属病院消化器外科にて、大腸癌の化学療法を受けられた患者さんの副作用の程度や頻度、また肝臓容積を解析し、化学療法における有害事象と肝臓容積についての検討を行います。

この研究は、患者さんの通常診察で撮影するCT画像やカルテ情報を用いて行われますため、本研究のために別に検査が増えることはありません。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、身長・体重、CT画像、治療内容、血液生化学検査結果、有害事象の有無(有の場合はその内容)

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。

その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器外科 助教・医員 岩井拓磨

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24194

メールアドレス：takumaiwai@nms.ac.jp